

今日の福音のみことばは私たちを途方に暮れさせるかも知れません。何故かと言うと、イエスに従おうとする者たち同士の、お互いの関係のあり方に切り込んでくるからです。

神の御前に身を置いて一人静かに祈ること、イエスのみことばを受けて自らを省みること、それはそれで、そう簡単なことではないでしょうが、私たちが、そのような気持ちになることが出来れば、そう難しいことではないかもしれません。自分自身がそのような気持ちになることが出来れば、自分ひとりでも出来ることのように思えるからです。事実、私たちは心のどこかで、そのような必要性を感じているようにも思えます。日常の生活の中で、そのような気持ちになることはなかなか難しいのは事実ですが、そのようなことに憧れを感じている私たちがいることも事実ではないでしょうか。周囲のわずらわしい人間関係から解き放たれて、神の御前に自分を取り戻すことが出来たときの言い知れぬ清清しさを私たちは経験しているはずです。私たちの信仰には確かにそのような一面があります。すなわち、私たちの信仰は、一人の人間としての私たちの内面に関わる事柄です。私たちの信仰の最も魅力的な一面は、神の御前における自分を見出すことによって、一個の人間として自分の人生に向き合って生きて行くための拠りどころと、足がかりを見出すこと出来るということです。イエスとのパーソナルな関係に導きいられることによって、自分の人生の絶対的な同伴者を見出し、この世において、イエスが生きられたように、周囲の人々を支えることが出来るだけの満たされた自立性をもって生きることが出来るようになるということです。このように考えると、一人ひとりの私たちの信仰にとって最も大切なことは、自分自身のうちに、このような内的な信仰を育てゆくということになります。そのためには、周囲のことに気を使いながらも、一人神の御前に身を置くことを学ばねばなりません。

それに対して、今日の福音のみことばは、ともに信仰の道を歩もうとする私たちのお互い同士の関係に目を向けるよう求めています。このことが私たちを混乱させます。自分の信仰を本当に自覚的に生きてゆくためには、私たちは独りになって、神の御前に身を置く必要性を感じています。けれども、それと同時に、私たちの信仰は自分一人のものではなく、同じ信仰の道を歩もうとしている人々とともに歩む共同体的なものでもあるからです。私たち一人ひとりを

信仰に招き入れてくださったイエスは、そのようにして、私たちを呼んでくださったからです。

今日の福音のみことばは、イエスの呼びかけに応じて信仰の道を歩もうとしている信仰共同体の私たち一人ひとりに向けられています。私たちにとって、今日の福音のみことばに応えることは、自分の内面で独りイエスの呼びかけに応えることよりも、はるかに難しいことかもしれません。何故なら、同じ信仰の道を歩もうとする共同体のあり方に目を向けるということは、その共同体におけるお互い同士の関係に目を向けることになるからです。私たちはそのようなことに対して、心のどこかに恐れを感じ、そのようなことから身を引こうとしている自分を感じているかもしれません。これ以上厄介な人間関係に巻き込まれたくないと思っているところがあるかもしれません。

けれども、今日の福音のみことばは、私たちが思うほど難しいことを求めているわけではありません。もっと積極的に教会活動に参加するというようなことを求めているわけではありません。積極的に人々の輪の中に入って行って、役割を担うように求めているわけではありません。ともに歩む信仰の道において、二人でも三人でもいいから、ともに祈りあえる誰かと繋がっているように勧めているのです。自分たちの中に、イエスがともにいてくださることを、感じあえるような誰かと繋がっているように求めているのです。イエスに従って歩む信仰の道で、お互いに励ましあい、忠告しあえるようなお互いの関係を築いてゆくことが出来るように求めているのです。信仰を生きることの難しさと、喜びを分かち合えるような、仲間の中に身を置くことを求めているのです。

私たちの信仰共同体は、一人ひとりの私たちが集って、ともにミサをささげることによって、直ちに、私たちの皆が、心満たされた充足感を味わうことが出来るほどには、成熟してはいないことを認めなければならないかもしれません。私たち一人ひとりの神の御前における信仰が成熟しているわけではないからです。折角教会に来てミサにあずかっても、心の中に孤独感を抱えたままであることが多いのではないのでしょうか。そのような私たちは、同じ信仰の道を歩もうとしている誰かと繋がっている経験を必要としているのです。今日の福音のみことばは、そのような私たちへのメッセージです。

私たちの信仰の集いである教会が、イエスに招かれた者たち信仰共同体であることに、もう少し信頼を置くことが出来るようにとの呼びかけです。同時に、私たちの信仰の集いとしての教会が、それにふさわしい信仰共同体として、お互い同士への信仰に基づく豊かな配慮を持った共同体へと成長するようにとの

呼びかけです。互いに繋がり、互いに係わり合いを持つことによって、お互いの信仰をより深めることができるようなお互い同士の関係を求めて、そこに向って、私たちの教会が、私たち一人ひとりの信仰が、成長してゆけるよう今日のミサでともに祈り求めたいと思います。

カトリック高円寺教会  
主任司祭 吉池好高